

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	2019年10月13日	評価結果確定日	令和元年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4291500058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和1年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は天井が高く開放的な造りになっている。玄関を出ると目の前には青い海が広がり、遠くに五島列島の島々を望め、美しい朝日を拝むことができる。
基本理念である「笑顔のたえない楽しく暖かく家」を念頭に置き、その実現に向け職員で協力し合い努力している。
地域柄、ご利用者様・ご家族・地域の方・職員が知り合いや顔馴染みであることが多く、親しみやすい関係が築きやすい。
墓参りや寺参り、ドライブなど外出支援に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小値賀町の自然豊かで穏やかな雰囲気そのままに、ホームの中にもゆっくり和やかな時間が流れていて、その中で利用者はそれぞれその人らしい生活を営むことができている。職員は各利用者がその人らしい生活を営めるように、日常の生活の中での会話を大切にしている、想いや要望を引き出して、計画書に反映した上で可能な限り支援に反映している。このような想いを重要視している職員は、利用者支援を円滑に行うためにもお互いの意思の疎通を大切にしている。このような考え方が全体的に浸透しているため、職員は日々働きやすい職場であると言い、その裏付けとして勤続年数の長い職員が多く在席している。最後に地域柄もあって、地域との交流が日常的且つ自然に発生している。一例を挙げると、利用者が理美容室に行くことができなくなったら、逆にホームに理美容に来てくれる等、困った時はお互い様の関係があった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付くところに掲示し朝礼時に唱和している。 「笑顔のたえない楽しく暖かい家」とは何か。具体的に考える機会を設け話し合った。	ホームの理念の振り返りについて、今年は第三者評価の自己評価を活用して、職員皆で話し合う機会を設けていた。特に「楽しく暖かい家」とはどういうところか重点的に話し合い、利用者が毎日単調な生活を送ることなく、ホーム内でのレクリエーションや、外出活動の充実を短期目標に掲げて、実践に向けた準備を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や運動会などのイベントに積極的に参加したり、暖家のクリスマス会に地域の方を招待し交流を図っている。	ここ最近の地域との交流として、小値賀町のボランティア団体の1つ、「健笑会」と風船バレーをしたり懐メロ合唱を行った。また、別に「ほほえみ会家族会」という認知症を支える家族の会とも交流があり、利用者と一緒に折り紙をしてひと時を共にした。このような交流は対事業所や、対職員だけではなく、対利用者が中心であるため、利用者にとって大変有益な取組みの1つと言える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で介護している方から相談されることがあり、支援の方法等アドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しているが、活動報告が主となっている。クリスマス会と一緒に開催し、ホームの様子をみて頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されており、会議の議事録で内容等を確認することができた。家族代表や地域代表、福祉事務所から特に意見や要望等はないことが多く、意見の引き出し方を課題として掲げられていた。この点については、現行通り、クリスマス会等の行事と並行して行ったり、避難訓練と同日に行う等、会議の在り方にアクセントを加えることで意見が出やすいのではないかとこの結論に至った。今後、ホームとして検討していくとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者との連絡は運営推進会議が中心となっている。	福祉事務所の担当職員との連携においては、運営推進会議の場において定期的に顔を合わせる機会があるため、不明な点は会議の時に尋ねたり、担当の方も逆に質問する等行うことで、特に支障なく関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度身体拘束・虐待防止委員会を開催。全員参加し具体的な事例を用いて勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束に注意するよう声掛けしている。	身体拘束をしない取組みの1つとして、3ヶ月に1度、基本的に職員全員が参加する「身体拘束・虐待防止委員会」の場で、振り返りや課題検討している。ここ最近では、転倒骨折の危険性の高い利用者へのケアの在り方や、「ちょっと待ってください」を用いる場面を協議したり、言い方を見直したりして、お互い気付きを得るようにしている。この他、身体拘束に関する研修については、全国版のニュースで取り上げられるような事例を職員皆で共有して、「その場であなたならどうするか」という視点で事例を活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1度身体拘束・虐待防止委員会を開催。全員参加し具体的な事例やニュースになった事件を用いて虐待をしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会があったが、制度活用の事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用開始前に面談や見学をして頂き、不安を軽減できるよう努めている。契約時には重要事項説明書を用いて説明し、納得・理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し、意見や要望を聞く機会にしている。ケアプランの見直し時期に「意見書」を出して頂くよう働きかけたり、暖家だよりで呼び掛けている。	家族等が意見を表出する場の1つとして、法人が主体となって開催している家族会があり、年に2回開催している。また、身近な手段としてケアプランの見直し時期に「意見書」を記載してもらうようにしている。これらと別に普段の関わりから意見を抽出するようにしているが、家族会に参加する家族は減少傾向にあり、意見書も特に要望等が記載されていなかったり、戻ってくることも少なくなってきた。今後、できるだけ利用者や家族等から意見を引き出す工夫が課題として残っている状況であった。	利用者や家族等が意見を表出する機会があることを、再度周知する目的で、ホームで発行している「暖家便り」の下方にでも、意見がある場合は「運営推進会議」・「町の福祉事務所」・「法人で定める苦情相談窓口」等入力しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は会議の場で聞くようにしている。出された意見は管理者から理事長へと上げている。	日常的な運営に関する職員からの意見については、定期的で開催している、職員会議の場で共有することになっている。最近の例を挙げると、職員より使い勝手の悪いベッドがあるため、利用者の立ち上がり等を考えると変更した方がいいのではないかということ協議した。このように利用者視点での意見交換を定期的に行っている。この他、理事長が利用者や職員を気掛けて、ホームを訪問してくれるため、利用者は安心して生活できたり、職員は信頼関係を深めながら仕事ができているとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格(介護福祉士、ケアマネージャー等)に応じて手当が付いたり、正職員として雇用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島外で開催される研修会や勉強会には参加出来ていない。町内で開催される研修や勉強会には積極的に参加し、研修報告で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養寿園や社会福祉協議会等の方達と一緒に勉強会を行い、サービスの質の向上の取り組みや情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談したり、施設を見学して頂くことで少しでも不安が和らぐよう努めている。また入居後は笑顔で声掛けし困ったことや不安を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時や電話がかかって来た時等に要望や疑問を聞いたり、入居後は暖家だより等でご利用者様の様子を伝えることで不安を無くしていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が、どのようなサービスを必要としているのか話を聞き、提供出来る事と出来ない事があることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来る範囲で自室や洗面所の掃除、洗濯物を干したり、たたんだりといった家事を手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月暖家だよりを個々に郵送し、近況を報告し共有している。面会や、ご利用者様やご家族の希望に応じて自宅に外出・外泊したり、電話をかけた会話することで関わりを持って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容室での散髪や商店での買い物をしたり、墓参りや寺参り、祭りや運動会といった地域の行事に出掛けたりと関係が途切れないように支援している。受診も知人と会って話をする機会になっている。	ホームの所在する地域の特徴として、利用者はちょっと買い物や、通院したり外へ出ると、必ずと言っていいほど知り合いと遭遇することであった。このような生活環境であるが故に、できるだけ外出活動を続けていく方針であることを確認した。この他、利用者が心身の状況に起因して、理美容店に行くことができなくなったら、逆にお店の人がホームに出向いて、理美容してくれることもあるとのことであった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を手伝って頂いたり、レクや体操等に参加して頂くことで交流を図っている。食事の席やソファ、車内の座席は相性に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、同じ地域の住民としての関係は続くため、会えば挨拶をしたり近況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様同士の会話や職員との会話から希望を把握したり、上手く表せない方の場合は行動や表情を観察し、汲み取るよう努めている。	職員は常に利用者に話しかけることを念頭に置き、会話の中から利用者の思いや希望を把握しようと務めている。そのために、利用者同士や、利用者との職員との会話がスムーズにできるように、食事時のテーブル席の配置やソファ席等を工夫している。会話を通じて把握した思いを「申し送りノート」に記録して、全職員で共有し介護計画に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族、在宅のケアマネから生活歴や暮らし方、サービス利用時の経過等を伺ったり、ショートステイ利用時の様子は養寿園の職員やケアマネから聞く等して把握に努めている。職員が顔馴染みなことも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護支援経過や各種チェック表、申し送りノートで共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれの担当者がモニタリングし、全員でカンファレンスを行っている。話し合いの場にご利用者様やご家族は同席されていないが、意見書に記入して頂いたり面会時に話を聞くことで意見や希望を計画に反映させている。入退院等で状況が変わった場合はその都度見直している。	毎日の支援内容や利用者との会話、行動等は「個人記録」に記入し、それを基に担当職員(各職員は1～2名の利用者を担当)は目標を達成しているかをモニタリングしている。処遇会議において全職員で気づき、意見を出し合い、目標やそれに向けての支援内容を話し合っている。家族の意見は「意見書」や面会時に把握し、介護計画に反映して、家族に説明後、同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議や処遇会議、個人記録、各種チェック表、申し送りノートを活用し現状の把握と共有に努め、実践や計画の見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や行事の際にご家族の送迎を行ったり、島外の病院に入院、受診する際港まで送迎したり、時には同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との馴染みの関係は築かれており、町民の一人として地域に支えられている。ボランティア(踊り、演奏など)を受け入れ交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は島内に一か所しかなく、入居後も引き続きかかりつけ医に診てもらっている。必要に応じて精神科、整形外科など専門外来を受診している。	地域の特性もあり、入所後も引き続き同じ医療機関を受診している。受診時の待ち時間に地域の人たちとの会話を楽しむことも多い。受診は職員が対応し、主治医の指示により必要な診療科目も受診している。変化があれば家族に電話や「暖家たより」で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	暖家には看護師がいないため、体調が変化した場合は直接診療所に連絡し早めに受診している。同法人施設の看護師とは相談ができる体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所に入院した際は様子を見に行き、医師や看護師から病状や退院の目途について情報を得ている。退院後の注意点等の指示も受けている。島外の医療機関に入院した際は、電話でソーシャルワーカーと連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りや重度化した時の対応や出来る事、出来ない事をご家族に説明している。	入所時に、緊急時の対応やホームが対応しうる支援内容を説明して同意を得ている。法人内の看護師との協力体制があり、相談できる環境が整っている。緊急時は24時間協力医療機関と連絡が取れる体制も整っている。利用者に変化があれば、家族と話し合い、今後の方針を共有する等、家族や医療関係者と連携を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導でAEDの使用方法や心肺蘇生の方法を学んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p> <p>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>夜間を想定した防災訓練を年2回実施している。そのうち1回は消防署、養寿園と合同で訓練を行い協力体制を築いている。地震・水害等の災害時の対応については消防署からアドバイスを受けている。自主検査チェック表を用いて火気関係のチェックを行い、20時・23時に戸締り、火の元を確認している。</p>	<p>年2回、夜間想定での防災避難訓練の実施を継続して行っている。本年度は、避難訓練後に「自然災害時の行動について」消防署の方から話を聞く等、地域の特性に応じた具体的な対策も新たに行っている。災害時には島内防災無線により地域の応援が得られる体制が整っている。飲料水や白米、紙コップパン、スープ、カレー等の備品を準備している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならないようにし、ご利用者様の思いをそのまま受け入れ否定しないよう心掛けています。言葉使いや声掛けについて会議の場で注意喚起している。	「利用者主体で考える」という理事長の思いを基本とし、認知症症状を理解しながら「やさしく話す」等、言葉かけに注意を払っている。「認知症勉強会」等、外部研修に参加し、研修内容を会議で報告して職員間で共有している。日常の支援の中で気になる言葉かけがあれば、ホーム長が注意する等、日常的な確認と研修等、改善に向けたホームとしての取り組みを確認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を表しやすいような言葉かけや、待つ姿勢で自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間など出来る限り一人一人のペースに合わせるようにしている。希望に沿った外出支援にも努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自分で選べる方はご本人に任せ、困難な場合はその方らしい服装を職員が選ぶようにしている。洋服や靴を購入する時は一緒に出掛けて選んだり、馴染みの理美容室で好みの髪型にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ウニご飯やアオサの味噌汁など、旬の物や地元で採れた野菜、海産物をメニューに取り入れれたり、お弁当を持って花見に出かけたり、テーブルを外に出して海を見ながら食事をしたり、楽しめる工夫をしている。下膳やテーブル拭き、おしぼり巻きなど手伝って頂いている。	旬の食材や地元で採れた野菜や海産物を中心に全職員で1週間分の献立を作り、厨房専属職員が調理している。地域住民の差し入れも多い。利用者の好みに応じた料理を取り入れる等、個人に合わせて柔軟に対応している。野菜の皮むきやゴマすり等の下ごしらえ、饅頭を利用者と一緒に作る等、利用者の残存能力を活かした取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や1日の水分量を記録し、十分な量が確保できるよう支援している。冷たい水、熱いお茶など好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行って頂いている。ご利用者様の力に応じて声掛けや見守り、介助し清潔を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、パターンの把握に努め、声掛け誘導することで失敗なく過ごせるよう、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。毎朝蒸しタオルで清拭し、下着を変えて頂いている。	排泄チェック表で利用者の生活パターンを把握して声かけを行いトイレに誘導する等、習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。退院時はリハビリパンツを使用していた利用者も、声かけやトイレへの誘導により布パンツで過ごせるようになる等、排泄の自立支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を飲んで頂いている。1日の水分摂取量が1000cc以上になるよう、食事時以外にもこまめに提供している。昼食前に歩行訓練や体操を実施し便秘予防に努めている。医師に相談し下剤での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数や時間帯は決まっているが、少しでも気持ちよく入浴して頂けるよう浴室や脱衣所の温度を調整したり、入る順番に配慮している。毎年初湯はゆず湯にしており、しょうぶ湯や、温泉の素など種類を増やすことも検討している。羞恥心に配慮して背中側に立ったり、ゆっくり会話したり、個々に合わせて対応している。	利用者の好み(同性介助希望、一番風呂が好き、好みの石鹸等)に配慮する等、一人ひとりの好みや希望に応じて個別の入浴支援を行っている。入浴を楽しんでいただくための支援方法も処遇会議で話し合っている。特に入浴時の会話を大切にしており、利用者の思いや意向を汲み取る努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は自宅から持ち込んで頂き、使い慣れたものを使用している。昼間も自由に休んで頂いているが、昼夜逆転しないようレクや日光浴の声掛けも行っている。夜間の室温や明るさを調整し、快適に眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめてファイルし、種類や用法・用量を確認できるようにしている。薬の追加や変更、臨時薬が処方された時は申し送りノートに記入し周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	亡くなったご家族の写真や御位牌を持って来られた方が毎朝お供えを上げたり、日課だった墓参りや寺参りに出掛けられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って買い物や墓参り、寺参りに出掛けたり、ドライブや散歩を行っている。自宅への外出や外泊、親戚宅への訪問も行っている。初詣や地域の行事にも積極的に出掛けるようにしている。島外への外出は実現できていない。	ホームの本年度目標として、外出支援に力を入れている。利用者の希望でドライブの回数を増やし、買い物、墓参り、地域の祭りや運動会に参加するために、職員間で話し合い勤務体制を検討している。「利用者主体で考える」という理事長の考えを基本とした職員同士で協力する力と環境が育っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かり、事務所で保管・管理している。数名の方はご自分で管理し、買い物に出掛けた際もご自身で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族や友人に電話し会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやトイレ、洗面所などこまめに掃除し清潔を心掛けている。ホールは夏場の西日が強いので、ブラインドで調整している。冬場は床暖房を使用し足元の冷えを防いでいる。クリスマスツリーや雛人形など季節ごとの飾りつけや、ご利用者様の写真を壁に貼り楽しんで頂いている。	ホールは、レクリエーションやアクティビティ、歩行訓練、体操等を行うための広い空間が確保され、利用者はホールで和やかに過ごす時間が多い。食事のテーブル席やソファの席に配慮して、利用者の会話が弾むように工夫している。毎日拭き掃除を行い、手すりはアルコール消毒をする、マスク着用を徹底する等、感染予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広く開放的なホールになっており、ソファや椅子など思い思いの場所で気の合う方同士で座り会話されている。玄関にもベンチや椅子を用意し、海や五島の島々を眺められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具、TV等を持ち込んで頂き、使い勝手がいいように配置している。御位牌や、ご家族の写真、ドライブや散歩に出掛けて摘んできた花を飾ったりされ、それぞれの居室が違った雰囲気になっている。	利用者は1日の大半をホールで過ごし、居室では休息をとることが多いため、落ち着いて過ごせるように、利用者の馴染みの物や家族の写真等をおいている。利用者の状態を把握して入り口からベッドまで安全に移動できるように家具の配置の工夫も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに張り紙をして分かりやすいよう工夫している。食卓の椅子は2種類用意し、ご利用者様に合わせて使い分けている。		